

令和元年度 大田区立大森第四中学校 自己評価 報告書

令和元年11月1日

○ 本校の概要

池上本門寺や本門寺公園に隣接し、区内屈指の緑豊かな自然に囲まれた学校である。ほぼ毎年野生のタヌキが現れ、子育てをしている。生徒や教職員、地域の方々もそれをほほえましく見守っている学校である。全学年4学級、約450名の生徒が在籍している。教育目標「恵まれた環境を生かし、『自主的で、品の良い、健康な、努力を惜しまない生徒』を育てる。」、目指す生徒像として ・人兼を尊重し、他者とのかかわりを大切にする生徒 ・人間性豊かで、思いやりのある生徒 ・明るく健康で、気力あふれる生徒 ・自ら学び、自ら考え、主体的に行動する生徒 として全教職員で教育実践に取り組んでいる。生徒が主体的に取り組み、熱意と力がこもった運動会と清陵祭合唱コンクール等の学校行事は本校の伝統で、多くの保護者や地域の方が来校している。PTAは学校に協力的で、「あいさつ運動」では年間約80日間に渡り輪番制で校門で活動し、「学校支援地域本部」と「親父の会」は夏に校内ペンキ塗りボランティアを主催し、毎年100名近くの生徒がボランティアとして参加している。活動後には校内の坂を利用した全長約25mの「流しそうめん」を実施し、地域と学校をつなぐ役割を担っていただいている。また、防災活動拠点訓練を池上特別出張所、市之倉北町会、堤方北町会、桐里梅田町会と協同で実施し、本校第2学年生徒が授業の一環として参加している。防災を通して地域の一員として生徒が活動する場になっている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組 評価	成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
							評価	コメント
プラン１ 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にシなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	4	○行事の後の生徒発表において、タブレットなどの機器を使用した発表の機会を設定する。 ○ICT機器の活用のための校内研修会を行う。 ○清陵祭や運動会などの行事に生徒が主体性を持って、一生懸命に取り組めるようにする。 回答者数 359名	A	○運動会・清陵祭を生徒主体で運営したことで、自主性・意欲・自分たちで考える力を養うことに結び付くと思います。本年度から生徒主体に切り替えることは学校側もさぞ大変だったと思いますが、行動自体に活気が感じられよかったと思います。 ○運動会、清陵祭の行事で生徒さん達が主体的に行動していた。それを先生方がやさしく見守っていただいた。とてもすがすがしく感じた。 ○ICT機器を活用した授業では、年配に先生方には苦手な方もおられると思います。徐々に活用する場面が増えれば十分だと思います。 ○左記取組、改善策は適切です。 ○ICT機器の活用について、取り組み指標として活用の有無を利用することは適切だと思いますが、実際に学力の定着や学び意欲の伸長に効果があったのかを検証していくことが大切だと思います。
			3:80%以上が回答した。					
			2:60%以上が回答した。					
			1:60%未満であった。					
		<u>論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。</u>	4:全教員が行った。	4				
			3:80%以上の教員が行った。					
			2:60%以上の教員が行った。					
			1:60%未満であった。					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:全正規教員が週1回以上活用した。	2				
			3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。					
			2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。					
			1:60%未満であった。					
		<u>他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。</u>	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	3				
			3:80%以上で行った。					
			2:60%以上で行った。					
			1:60%未満であった。					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。	1				
			3:80%以上の教員で行った。					
			2:60%以上の教員で行った。					
			1:60%未満であった。					
		運動会、清陵祭をはじめとした各行事において、生徒が主体的に活動できる場を設定している。	4:全教員で行った。	4				
			3:80%以上の教員で行った。					
			2:60%以上の教員で行った。					
			1:60%未満であった。					

プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	3	4	○面談において、学習カルテのデータを生徒が主体的に活用できるように指導する。	A	○良く取り組まれていると思います。 ○数学、英語を主熟度別クラスで対応していただき満足している。また、学習カルテを基に、学習方法等の指導もあり、公立中学校の指導も変化してきているのだと感じた、特に、四中は細やかな進学指導、中学1年の時から高校受験に向けた意識を植え付けてくれていると思います。	
			3:80%以上で行った。						
			2:60%以上で行った。				B		
			1:60%未満であった。						
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。	4		○学習チェックシートの活用の仕方の工夫と、結果を保護者に知らせる回数を増やす努力をする。	C		
			3:学期毎に知らせた。						
			2:年度間に1回は知らせた。						
			1:お知らせできなかった。						
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。	4		○学習効果測定の結果分析から学習改善プランを作成し、小学校との連携を図りながら授業改善を進める。	D		
			3:80%以上の教員が働きかけた。						
			2:60%以上の教員が働きかけた。						
			1:60%以下の教員が働きかけた。						
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		○言語活動をより充実させるために、意識的・計画的に様々な活動の場面でやっていく。	D		
			3:80%以上が回答した。						
			2:60%以上が回答した。						
			1:60%未満であった。						
		授業に主体的・対話的で深い学びを取り入れ、学力の向上を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4		○校内で研究授業を行い授業力の向上を図る。 回答者数 220名	D		
			3:80%以上が回答した。						
			2:60%以上が回答した。						
			1:60%未満であった。						

プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4	○道徳の授業では考えることと話し合うことを重視し発問を工夫する。また、資料活用による充実を図ると共に、評価についての研修を行う。 ○小中一貫教育の会を通して、校区の学習・生活のスタンダードを確認し、小中連携して指導にあたる。 ○問題行動・不登校問題等について行われた会議の内容は、知るべき教職員が必要な情報を確実に共有できるように努める。 ○SNSの使用や人権に関する学習では、教員のロールプレイを通して、生徒に深く考える機会を与える努力をする。 回答者数 347名	A	○教員の方々のロールプレイなど、生徒の気持ちに寄り添い、また、生徒自身が自己を素直に見つめる素直な気持ちを引き出す努力を常日頃から学校側は努めていると感じます。それが学校の明るい雰囲気を作り出しているのでは。 ○子供達が学校へ行く事が楽しいと思える環境を先生方が作っていただいていると感じます。 ○子どものメンタル部分の取組はとても大変だと思います。地道に忍耐強く取り組んでいただきたいと思います。			
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。						3		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。				2			B	
			学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。								4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。
				問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。					4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。		4
		不登校生徒や欠席が多い生徒への対応は、スクールカウンセラーと連携し、全教員できめ細やかな対応を行う。					4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		2		

プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4	○毎時の授業において5分間走の取組を行っている。授業以外の場での取り組みができるかを検討する。	A	○オリンピック・パラリンピックは今後の人生において2度と体験できないかもしれません。子どもたちには素晴らしい思い出にしていきたいと思います。 ○オリンピック・パラリンピック教育は開催前の取組を期待しています。 ○運動習慣の確立は難しいと思いますが、体力向上は大切なテーマなのでもう少し工夫が必要かと。		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2		○月間取組については、アンケートにより実態を把握し、効果的な意識啓発を行っていく。	B			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		○「食育」について、教職員が意識を高め、給食指導に限らず各教科等においても計画的に推進する。	C			
		オリンピック・パラリンピック教育を推進し、生徒の運動・体力・健康等についての関心を高める。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1		回答者数 237名	D			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4		3	○授業評価のアンケート結果をたくさんいただけるように工夫し、その結果を授業に生かす。		A	○限られた時間の中で、授業の改善に向け、研究会、研修会に参加し、生かすことは大変なことかと思いますが、四中生の学習意欲を高めることにもつながると思います。引き続きよろしくお願いいたします。 ○毎日忙しい中で研修や研究に時間を割くことは大変だと思いますが、できるだけ、研修や研究を充実させていただきたいと思います。 ○忙しい中で先生方は日々頑張っていらっしゃいますが、どうしても教師ごとの授業力に差が出てきてしまう部分をもう少し仕組みで埋めていければと思います。 ○公開授業の際、保護者も講演会等の参加を働きかけている。 ○授業評価のアンケート結果を反映させている。
			3:80%以上の教員が回答した。							
			2:60%以上の教員が回答した。							
			1:60%未満であった。							
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。	3			○校内で相互の授業見学を活発に行い、主任教諭によるOJTを充実させる。		B	
			3:学期に1回(年間3回)以上行った。							
			2:年度間に1回以上行った。							
			1:実施しなかった。							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	○研究会・研修会に計画的に参加し、その成果を授業改善に生かす。		C			
			3:80%以上の教員が回答した。							
			2:60%以上の教員が回答した。							
			1:60%未満であった。							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。	4	○分かりやすい授業、興味・関心を高める授業を目指し、ICT機器を活用した授業を展開する。		D			
			3:学期に2～3回行った。							
			2:学期1回以上行った。							
			1:実施しなかった。							
		学級集団調査の結果を分析し、生徒一人一人の状況を把握した上で、よりよい学級集団づくりに向け取り組む。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	○特別支援教育について、担任と校内委員会が連携し、組織的に推進する。					
			3:80%以上の教員が回答した。							
			2:60%以上の教員が回答した。							
			1:60%未満であった。							

プラン6 学校・家庭・地域が一体となつてともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。	4	4	○地域教育連絡評議会において、評価に必要な情報を確認し、その情報を十分に提供して適正な評価につなげる。 ○外部指導員の招聘について、学校支援地域本部の力を積極的に活用していく。 ○同一步調で指導にあたることができるように、実際の指導の経過・結果を十分に共有し、各自の生活指導に反映させる。 回答者数 257名	A	○地域や親父の会の活動、イベントなどに参加している。 ○子どもの頃のボランティア活動など、地域とのつながりを経験することは、大人になってからの社会とのつながり方に大きく影響を及ぼします。今後とも地域と関わる機会をより一層充実していただきたいと思います。 ○学校と地域が程よい距離で良い関係を作れていると思います。 ○学校側から積極的に地域との連携を働きかけて活動している。そして地域の方々からも協力を得ている。
			3: 学期に2～3回更新した。					
			2: 学期1回以上更新した。					
			1: 更新しなかった。					
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4: 毎回情報を提供した。	4				
			3: おおむね情報を提供した。					
			2: あまり情報を提供しなかった。					
			1: 情報を提供しなかった。					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4: 学期に2～3回行った。	3				
			3: 学期1回以上行った					
			2: 年1回以上行った。					
			1: 実施しなかった。					
		町会や青少対等地域との連携を強化すると共に、ボランティア活動等で積極的に関わるよう、生徒に働きかけていく。	4: 学期に2～3回参加した。	4				
			3: 学期1回以上参加した。					
			2: 年1回以上行った。					
			1: 参加しなかった。					
	家庭学習の取組を一層推進していくために、様々な場面で保護者に呼びかけながら理解いただき、家庭との連携を強化していく。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	3					
		3: 80%以上の教員が回答した。						
		2: 60%以上の教員が回答した。						
		1: 60%未満であった。						
特色 取 あ 組 る	親子、そして地域とのつながりを大切にする機会をつくります。	子どもたちが保護者・地域との一体感を感じ、つながりを意識するようになることをめざし、「おやじの会」と共催行事への参加を学校全体で推奨していく。	4: 全学級で働きかけた。	4	4	○校内ペンキ塗りや地域清掃などの活動、地域のイベントに積極的に参加できるようにする。 回答者数 221名	A	○しっかり取り組んでいると思います。 ○親父の会への加入促進のご助力をよろしくお願いいたします。
			3: 80%以上の学級で働きかけた。				B	
			2: 60%以上の学級で働きかけた。				C	
			1: 働きかけた学級は60%未満であった。				D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。